

ストップ・ザ・安倍！ 府民の願いと意思によりそいつつ

京都と日本の新たな夜明けにむけ、私たちの総力を知事選へ！

いつまでも私の脳裏に焼き付いている一場の光景が浮かぶ。それは「2・21府民大集会」における福山和人弁護士（京都府知事候補）の演説シーンだ。そのとき福山さんは、ひとりの若者が母親の介護のために離職したが、生活保護も受けられないままに、どうにもならなくなって母親を殺害してしまった事件について語った。そして福山さんは、あふれる涙をこらえながら、政治の貧困を鋭く批判した。その光景を目の当たりにした私は、「民衆の苦しみや悩みに心底から思いを馳せ、ともに泣きながら救いの手をさしのべる人」が、まさに民衆のための「護民官」が、ここ京都に登場したと確信した。

かつて美濃部亮吉氏は、東京都知事候補に立候補したとき、「ストップ・ザ・佐藤（首相）」と叫んで、国政と都政を一体の悪政としてとらえ、都知事の座にさっそうと登場した。福山さんの相手候補は相も変わらず国交省幹部の天下り官僚そのものである。福山さんこそ、いまやウソと策謀うずまく安倍政治と天下り官僚候補を「ストップ・ザ・安倍」の名のもとに乗り越え、新しい府政を実現する人である。

福山さんの「府知事選挙・政策大綱」である「府民丸ごと全力応援プロジェクト」を通読しても、まったく同じような共感にさそわれる。そのうえ福山さんの個性というか特質もきわだっている。たとえば欠陥や弱点を鋭く批判し、強固に自己主張する人というよりも、困難に悩み苦しんでいる人びとに対し、やさしく、しなやかに思いやり、そしてともに泣くことができる人だと感じさせる。しかも、それが「同情」といったものではなく、悩み困っている人びとへの「暖かい激励」となっているのだ。本物の弁護士とはこういうものなのかと思わせる。

だが、ここで福山さんの個性や資質のすぐれていることだけを強調したいのではない。むしろ福山さんのような個性や資質を時代が求めているのだ。私の知り合いのなかにも、「もう新聞を取るのもやめなければ・・・」と困窮を訴える人もいる。また生活保護を必要とする状況にありながらも、親戚にまで事情聴取されるので・・・と、申請をためらっている人もいる。

グローバリゼーションと格差社会の深刻な進行は、暴露と攻撃的批判だけでなく、当事者たちによりそうこと、やさしく思いやり、そして激励となるような方策や提言をすることこそ、多くの国民が求めるものであり、時代にふ

さわしい要請でもある。福山さんが現代的なリーダーであることも、そうした時代の要請にこたえうる資質の持ち主だからだ。

さあ、こうして「府民の護民官」・「本物の弁護士」が、京都府知事選挙に敢然と立候補し戦っているのだ。君は、貴女はどうするのだ。感動し意気に感じておられる人も多いと思う。＜知事選挙の場は広大な海原のようだ。まだ寒気が残っている府北部から人口百数十万人の京都市、府南部にいたるすべての地域で過半数の得票を確保すべく奮闘しなければならないのだ。＞

では、どうすればいいのか。まず福山さんの演説をビデオやテープでもう一度、周囲の人びとと聞いて下さい。これを聞いて、いてもたってもおれない気分におそわれない人はいないだろう。そして知人住所録や電話番号メモを取り出し、電話での依頼だ。なるべく期日前投票に行ってくれるようお願いすることも忘れないように。京都府住民のために、ともに悩み、ともに泣き、しなやかな解決策を指し示す護民官・本物の弁護士を、京都府のリーダーにする千載一遇のチャンスを逸するなかれ！

＜注記＞行数が多いようでしたら、最後から10行目～8行目の＜・・・・・・＞部分をカットして下さい。